

新規事業採択時評価結果（平成23年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

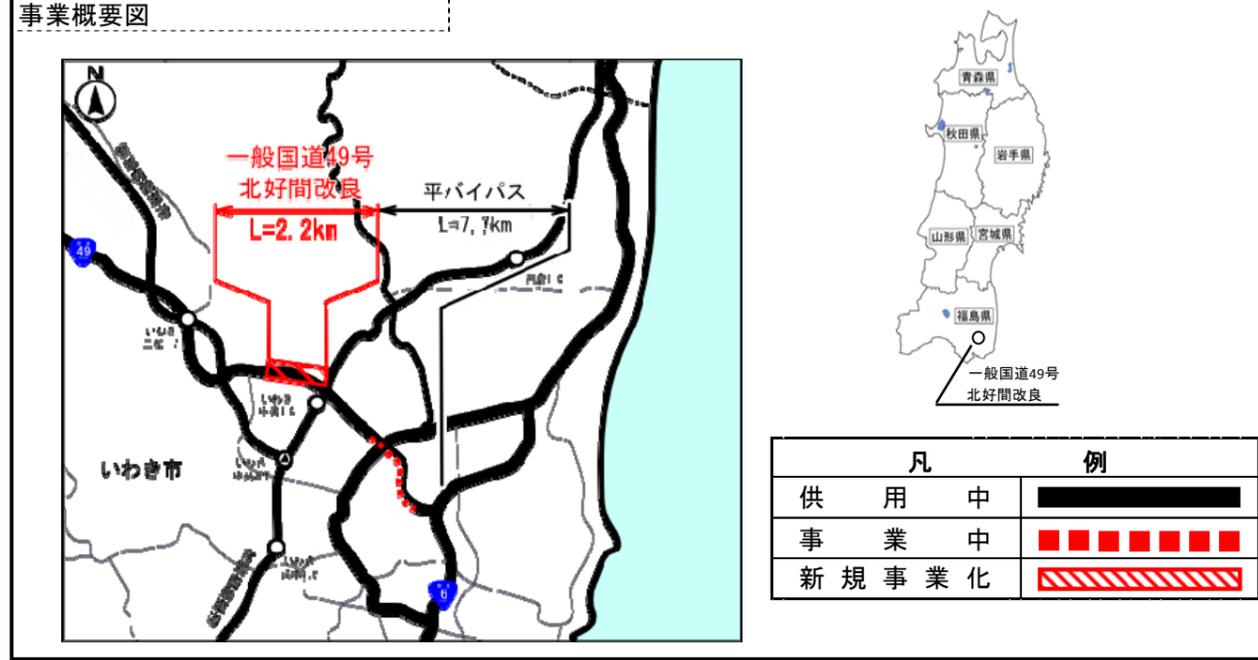
事業の概要

事業名	一般国道49号 北好間改良	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県いわき市好間町北好間字清水 至：福島県いわき市好間町北好間字猪ノ鼻	延長	2.2km		

**事業概要**  
一般国道49号は、福島県いわき市から新潟県新潟市に至る延長約240kmの主要幹線道路である。北好間改良はいわき市好間町北好間字清水から同市好間町北好間字猪ノ鼻に至る延長約2.2kmの道路である。

**事業の目的、必要性**  
当該区間の整備により、北好間地区の交通容量が確保され、交通渋滞の緩和及び線形不良解消による交通事故の削減等が図られる。

全体事業費	約50億円	計画交通量	10,900台/日
-------	-------	-------	-----------



**関係する地方公共団体等の意見**  
【福島県知事】  
・予算化に同意  
・基幹的な道路であり、円滑な交通確保が必要

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
・新規事業化については妥当である  
・B/Cの3便益以外の評価項目として、「物流による経済効果」、「ネットワークの形成に寄与する」、「地域の活性化」、「国際競争力」という視点でも検討してほしい

**事業採択の前提条件**  
■費用対便益：便益が費用を上回っている  
■手続きの完了：地元（いわき市）と対策案を合意（平成22年5月20日）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用：42億円 （事業費：38億円 維持管理費：4.1億円）	総便益：58億円 （走行時間短縮便益：48億円 走行経費減少便益：6.8億円 交通事故減少便益：3.3億円）	基準年：平成22年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.8（交通量 +10%）		
		事業費変動	B/C=1.3（事業費 +10%）	B/C=1.5（事業費 -10%）		
		事業期間変動	B/C=1.3（事業期間 +20%）	B/C=1.5（事業期間 -20%）		
事業の影響	自動車の影響	評価項目	評価	根拠		
		渋滞対策	◎	・いわき中央IC交差点の改良により混雑を解消する。 【いわき中央IC交差点における交差点飽和度の改善】 1.2 ⇒ 0.9 【当該区間の混雑度】 1.49 ⇒ 0.76		
		事故対策	◎	・事故発生割合の高い区間の対策を図る。 （いわき中央IC交差点付近、北好間地区の単路部） 【死傷事故率（H17～H20平均値）】 いわき中央IC交差点部：586件/億台キロ 【急勾配や急カーブ箇所の解消】 縦断勾配i=5%以上の箇所 4箇所 ⇒ 0箇所 曲線半径R=150m未満の箇所 4箇所 ⇒ 0箇所		
	歩行者への影響	歩行空間	○	・当該区間は通学路に指定されているものの、幅員2m未満或いは歩道未設置の区間も存在。当事業により、通過交通や大型車交通が転換され、歩行者・自転車等交通弱者への安全性が向上する。		
		住民生活	○	・当該路線の利用により患者の安静な搬送（質の向上）が見込まれる。 ・北好間地区から三次医療施設（磐城共立病院）への搬送時間の短縮が見込まれる。		
			地域経済	○	・いわき中央IC交差点の渋滞を解消することにより、いわき好間中核工業団地までのアクセスが改善され、物流強化による地域振興が期待される。	
社会全体への影響	災害	○	・代替路の確保により、広域迂回の解消が期待される。			
	環境	-				
	地域社会	○	・国道49号郡山市方面やいわき三和ICへのアクセスが改善され、地場産品の輸送向上等地域の活性化、交流圏の拡大が期待される。			
事業実施環境	○	・意見交換会、アンケート調査を実施し、地元（いわき市）と対策案を合意済。（平成22年5月） ・福島県知事やいわき市長、地元（区長、県議会議員、市議会議員）より積極的な要望活動が行われており、地元の期待は大きい。				

対応方針

費用便益比が1.4と便益が費用を上回ると共に、地元と対策の合意がなされていることから事業採択の前提条件が確認できる。  
また、住民生活や地域経済など、事業効果が高いと判断できる。以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。